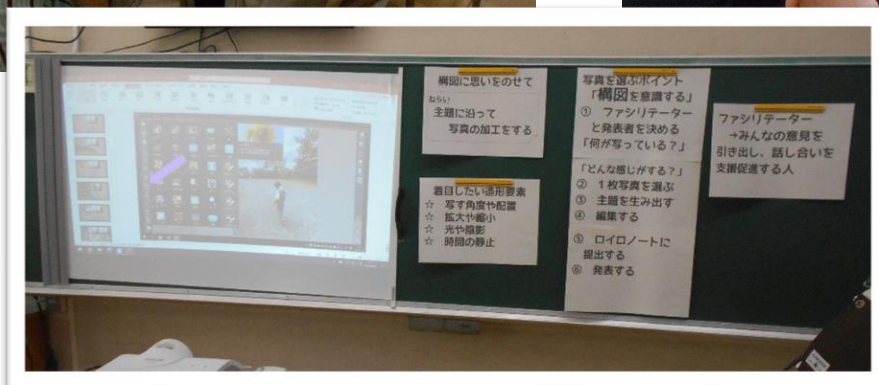


○中学校「構図に思いをのせて」

授業者：石谷和佳子(森孝中)・佐久間貴子(山王中)

写す角度や配置、拡大や縮小、光や陰影、時間の静止などに着目して、タブレットPCカメラ機能で対象の魅力を捉える「構図に思いをのせて」。生み出した主題を基に、構図や色彩を工夫しながら、タブレットPC上で写真を加工し、臨場感を生き生きと表現することがねらいです。何度も試し、やり直したり、互いの見方や感じ方を伝え合ったりして、生徒の気持ちになって、構図に思いをのせていきます。



《参加者の感想》（一部抜粋）

- タブレットを使った鑑賞方法を、ぜひ活用していきたいと思った。プロジェクターを鏡に使うなど、いろいろなアイデアを知れてよかった。
- 個別化、協働の場面、その方法が分かってよかった。
- タブレットの振り返りの活かし方が勉強になった。
- 自分で試すことによって様々な発想が生まれてくると感じた。材料も白一色だったので、光に注目することができた。思ったような光り方をしてくれず何度もトライした。子どももそんなふうに考え、友達と話し合いながら発想をふくらませていくのだと感じた。
- 試す場で、様々な方の光の形を見ることができたことで、低位の子たちも思いつきやすく、個性的な作品が作りやすい環境をつくってあげることができると分かった。
- 山田教授が話していたように、授業のゴールや輪郭が分かると、より丁寧な授業になると思う。
- 作品をつくり始める前にたくさん試したり、他の人と話したりしながらやることができ、苦手な子にとってはいいと思った。
- 子どもの視点で授業に参加でき、よい経験になった。
- タブレットはロイロノートを使って制作記録をとったり、資料を活用したりする使い方のみで作品制作をしたことがなかったので興味深かった。
- 話し合っって作品をつくる体験が新鮮だった。美術は個での制作が中心だが、参考にしたい。
- DVDやデジピクスを活用して交わる活動ができ、ICTとグループ活動両方充実して取り組むことができた。